

<今日の説教のポイント I コリント 15 章 1-11 節>

復活について。 まず、イエス・キリストの復活とそれが持つ意味。

1 (1-2) パウロ、「福音」について最大限の力を込めて語る。

パウロが力を込めて「福音:good news」について語っています。「…この福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまおうでしょう」(2)は、「もし根拠もなく信じたのでなければ、この福音によって救われます」とも訳せます。信仰は、なぜそれを信じていいのか、その根拠がはっきり分かっているなければ、自己流の信仰に留まり、恵みの大きさも中途半端な理解で終わり、「生活のよりどころとしている(1):今、その中に立っている、が直訳」、と言えるものにはなりません。その根拠について、この後、パウロは語って行きます。

2 (3-8) その福音とは何か？ 福音の中心は？ キリストの復活！

私は、初めてここを読んだ時、びっくりしました。キリストの死と復活が「聖書に書いてある通り」(3,4)、イザヤ書 53 章、ホセア書 6 章 2 節に記されていることにも驚きましたが、それ以上に、復活されたイエス様を、ここに記されているように、多くの人が見たということに驚いたのです。この手紙が記されたのは紀元 50 年頃ですから、作り事ではばれてしまいます。また、そんなことをしてまでして信じる信仰なんて空しい(根拠なし!)と、パウロ自身が語っています(12 節以下)。だとすると、あとは私たちがこれを信じるかどうかですが、そこでもう一つ大事なことがあります。この出来事(主の復活)が持つ意味です。その意味が分かった時に信じることができることも多々あるからです。

3 (9-11) 自分の罪を知り、その赦しを知らされる出来事、主の復活！

パウロは、「わたしは神の教会を迫害した」(9)と告白します。そして、「神の恵みによって今日のわたしがあ

る」(10)と続けます。人間によるキリスト殺害と神によるキリスト復活の出来事に、パウロは自分の「罪」(ハマルティア:矢を射るが的を外れている、が原意。つまり神の方を向いて生きていないこと)を知り、同時に、その罪の赦しを知らされたのです。人間の罪を赦された神様のこの出来事は、死人の復活以上に驚きの出来事ではないでしょうか。パウロがその後命をかけて伝えたこの福音は、私たちにも差し出されている神様の恵みなのです！